

平成28(2016)年「正覚寺報」7月号

ご案内

お聴聞と人生を語る会7月3日(日)20時～

四年前に発足した当院の「御法話会」は、本年度当初から発展的に首記の様に改称し地道な営みを続けています。如来様のお慈悲を賜り自らの歩みをお訊ねする営みでございます。

仏教婦人会例会 7月16日(土)19時半～

有り難いことに仏婦三名のお方が組連続研修を御受講戴くことになり申請致しました。

毎月の例会は、役員年度だけのお聴聞ではなく、人生を通してのお聴聞であることを忘れずに続けて戴きたく存じます。

湖北祖親鸞聖人讃仰布教大会のご縁

住職は、去る六月十二日、湖北組の親鸞聖人讃仰布教大会に出講のご縁を戴いて参りました。

会所は木之本の専覚寺様、山門をくぐり抜けると張りのあるメリハリのきいたお声の挨拶ご講話が迎えて下さいました。

御講話は、「私たちは人生経験を通してお法りの深い世界に導かれる」というご趣旨に受け止められ、当日その会場を初めてお訪ねしたとも思えない親しみを覚えたことであります。

讃仰布教大会は、全部で三座、昼食後の最後のお座は、思いがけず不肖がお引き受けすることになっておりました。

一昨年までは、不肖自身が前席担当でしたので不安はなかったのですが、最終席だと前席までの印象を踏まえておかねばなりません。

ですので当日は早めに会所に赴き第一座からお聴聞させて戴きました。

第一座は中国古典を出拠にした人生訓でした。話題は、教行信証の引文ではありませんでしたが「お敬い」の気持ちが大切とお話戴きました。

第二座は、法然聖人門下の三大諍論(じょうろん:

ディベート)を採り上げてのものであります。

その一が体失・不体失往生(たいしつ・ふたいしつおうじょう)、第二が信心同意(しんじんどうい)、第三が信行両座(しんぎょうりょうざ)のお話でした。

最後のお座ではお聴聞の目的は阿弥陀如来のお救いに与らせて戴くことであり、それには救い主にお会いさせて戴くにしくはないと押さえて、

韋提希夫人(イヅヅノ)のご縁を通してご本尊のお姿を仰ぎ見る「見遇(けんぐう)」のおいわれを思い起こし(見遇そのものはお浄土に生まれてからのご利益)、私たちは、さあ称えてご覧との如来様の思し召し通りにお念仏するとき、如来様直々のお喚び声に遇わせて戴くことよと「聞遇(もんぐう)」の次第をお取次ぎさせて戴きました。

かくして僅かなお時間で仏教讃歌「ふとあおぎみるおすがたは」を満堂の皆様方と共に斉唱して味わわせて戴いたのであります。

初めてのご縁、初めての仏教讃歌なのに皆様のお声が本堂にこだまし、会所のご住職から最後の「なむあみだんぶ」がご法座の締めになったとお慶び戴いたのであります。

第8回無量寿経勉強会無事営まれました

六月二十三日の大田利生和上ご指導の仏説無量寿経勉強会は、俄に自習を仰せつかりました。

全く思いがけない事態でありましたが、別途龍大での林 智康勸学和上様にご指導戴いている教行信証の証巻のご縁もあって「浄土真宗の今生のご利益(等正覚(とうしょうがく)はなぜ今生の事態か)」について九版迄重ねた最新版を十部用意しておりましたので、これは如来様の思し召しかと密かに驚きを覚えた次第でありました。

幸いに受講生のみ十名の勉強会は、活発な討議に花が咲き、ホームページ掲載の通り、無事営み終えることができたのであります。合掌。